奈良・平城京跡左京三条二坊一坪

1　所在地　奈良市二条大路南一丁目
2　調査期間　第一九〇次調査　一九八八年（昭63）五月～一一月
3　発掘機関　奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
4　調査担当者　代表　町田　章
5　遺跡の種類　都城跡
6　遺跡の年代　奈良時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

一九八六年から八九年にかけて実施したデパート建設に伴う発掘調査では、総計一一万点にも及ぶ木簡が出土した。その大半は、左京三条二坊八坪東南隅の南北溝状土坑SD四七五〇の長屋王家木簡約三五〇〇〇点と、八坪北側の二条大路上の濠状遺構SD五一〇〇・五三〇〇・五三一〇の二条大路木簡計約七四〇〇〇点が占めるが、他にも多数の遺構から木簡が出土し

（奈　良）

ている。本誌では各調査出土の主要な木簡を既に紹介したが、本誌未報告の調査の存在が判明したため、ここに報告する。

木簡が出土したのは、一坪南辺の奈良時代末期（一坪占地の時期にあたる）の井戸SE四八八五で、井戸枠は一辺八〇cmの方形縦板組隅柱横桟どめ、掘形は径二・一mの円形、深さは二・九mで、底に円礫を敷き、径六八cmの円形曲物を据える。木簡は掘形と井戸枠内から各一点、計二点出土し、井戸枠内の一点のみ釈読できた。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈厚狭郡地子米五斗」　153×29×3　032

長門国厚狭郡の地子米の荷札である。公田の地子米は太政官の雑用に充てられ、同じ一坪の井戸SE五一四〇や同坪の包含層から墨書土器「官厨」が出土したことから、旧長屋王邸に設けられた光明皇后宮の廃絶後再び国家の管理下に置かれたこの地が、奈良時代末に太政官厨家として利用された状況が窺える。長岡京の太政官厨家は左京三条二坊八町にあり、平城京における位置をほぼ踏襲していると考えられる。

9　関係文献

奈良国立文化財研究所『平城京木簡』一（一九九六年）
同『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』（一九九六年）

（渡辺晃宏）